



世界人工知能大会（WAIC2025）が示す中国 AI の全貌：産業応用と技術覇権への戦略的転換

2025 年 7 月 26 日から 29 日まで上海で開催された「世界人工知能大会（WAIC2025）」は、中国 AI 産業の到達点と今後の方向性を鮮明に示す歴史的な転換点となった。展示面積 7 万平方メートルという過去最大規模を記録し、800 社以上の企業が参加、延べ 35 万人が来場したこのイベントは、もはや単なる技術展示会ではなく、中国が AI 分野で世界をリードする姿勢を明確に打ち出す「戦略的プラットフォーム」へと進化を遂げている。^{[1][2][3]}

開催規模と国際的重要性の飛躍的向上

WAIC2025 の規模と注目度は前例のない水準に達した。定価 168 元の 1 日チケットが転売市場で 1500 元まで高騰し、3 日間チケットは 2000～3000 元で取引されるという異例の熱狂ぶりを見せた。この現象は、中国国内における AI 技術への関心の高まりを端的に物語っている。^[3]

国際的な参加者も大幅に増加し、30 カ国以上から 1,200 人以上の専門家が集結した。その中にはチューリング賞受賞者やノーベル賞受賞者 12 名、80 名以上のアカデミー会員が含まれ、国連工業開発機関（UNIDO）などの国際機関の代表団も参加した。チューリング賞受賞者による「経験の時代（Era of Experience）」と題した基調講演は、AI 研究における新たなパラダイムを提示するものとして注目を集めた。^{[2][4]}

大会のテーマは「AI 時代におけるグローバルな連帯（Global Solidarity in the AI Era）」と設定され、技術展示だけでなく、AI ガバナンスに関する国際的な対話の場としての役割も強化された。これは、中国が AI 技術の開発競争だけでなく、国際的なルール形成においても主導権を握ろうとする戦略的意図を反映している。^{[4][2]}

展示構成と「AI 能力回廊」の戦略的設計

WAIC2025 の展示は 4 つのホールに分けられ、「AI 能力回廊（AI Capability Corridor）」という統合コンセプトのもとで構成された。この設計は、AI の基礎技術から産業応用、実装、商業化に至るまでの完全なバリューチェーンを一貫して提示する意図を持つ。^{[2][4]}

H1：コアテクノロジーホールでは、大規模言語モデル（LLM）、コンピューティングチップ、データプラットフォームなどの AI 基礎技術が展示された。40 種類以上の大規模言語モデルが披露され、中国 AI 企業の技術力の多様性と深さが示された。特筆すべきは、これらのモデルが「パラメータ数の規模」から「実際の導入・活用能力」へと焦点を移していることである。Huawei、Alibaba、MiniMax、Moonshot AI などの企業は、汎用プラットフォームとしての LLM だけでなく、特定業界向けに専門化された AI モデルの実装能力を強調した。^{[5][1]}

H2：産業応用ホールでは、インテリジェント・ドライビング、スマートシティ、フィンテック、新産業化などの分野における AI 統合の具体例が展示された。ここでは、AI が既存産業にどのように組み込まれ、どのような価値を創出しているかが重点的に示された。^{[4][2]}

H3：スマートデバイスホールは、WAIC2025 で最も熱気に包まれたエリアとなった。60 種類以上の AI ロボット、特に人型ロボット（ヒューマノイド）の展示が来場者の注目を集めた。前年の 18 社から 80 社以上へと参加企業が急増し、国内最大規模のロボット集結となった。^{[1][5]}

H4：エコシステム・コネクティビティホールでは、スタートアップ企業と投資家を結びつけるマッチングの場が設けられた。200 社以上の AI 系スタートアップが参加し、若手起業家によるピッチと実際の商談が同時進行する活気あふれる光景が見られた。^{[5][2]}

主要企業の新製品・新技術発表

Huawei（華為技術）：圧倒的な演算能力の提示

Huawei は WAIC2025 で最も注目を集めた企業の一つとなった。同社が発表した AI コンピューティングシステム「CloudMatrix 384」は、最新半導体「910C」を 384 個搭載し、米国の調査会社セミアナリシスによれば、一部の指標で NVIDIA の「GB200 NVL72」を上回る性能を持つとされる。この発表は、米国の半導体輸出規制下においても、中国が独自の高性能 AI チップ開発で着実に進展していることを示すものである。^[6]

Huawei はまた、2026 年の Ascend 950 シリーズから 2028 年の 970 シリーズまでの 3 年間にわたる AI チップロードマップを異例の透明性で公開した。これは外国サプライヤーへの依存を減らし、AI 供給チェーンの自立を達成する決意を示すものである。同社は独自の高帯域幅メモリの開発も進めており、AI チップを効率的に接続する新しいコンピューティングクラスターの構築も計画している。^[4]

Tencent（騰訊科技）：3D 世界生成の革新

Tencent は「Hunyuan 3D World Model 1.0」を発表し、テキストや画像から完全にナビゲート可能な 3D 仮想環境を生成する技術を披露した。このモデルは、従来の 3D シーン構築に必要な専門チームと数週間の作業を、わずか数分で実現する画期的なものである。^{[8][9][6]}

Hunyuan 3D World Model 1.0 の特徴は、単なる 3D 画像生成にとどまらず、Unity や Unreal Engine などの主要なゲームエンジンと互換性のある標準化されたメッシュアセットを出力できる点にある。これにより、ゲーム開発、VR 体験創造、デジタルツインなど、多様な産業での実用化が可能となる。Tencent はこのモデルをオープンソースとして GitHub と Hugging Face で公開し、グローバルな開発者コミュニティとの協働を重視する姿勢を明確にした。^{[9][10][8]}

SenseTime（商湯科技）：マルチモーダル推論の新境地

SenseTime は大規模 AI モデル「SenseNova V6.5」を発表し、画像とテキストを組み合わせた新しい推論プロセスによって、AI を「ツール」から「ヒト」へと進化させる新たなステージに到達したと主張した。^[11]

SenseNova V6.5 は、テキスト推論力およびマルチモーダル推論力において、Google Gemini 2.5 Pro や Anthropic Claude 4-Sonnet を凌駕する性能を示したとされる。さらに、マルチモーダル対話能力でも Gemini 2.5 Flash や GPT-4o を上回ったとしている。特筆すべきは、モデルアーキテクチャの最適化により、前バージョンと比較してコストパフォーマンスが 3 倍以上向上した点である。事前学習の処理速度が 20%以上、強化学習の効率が 40%、推論の処理能力も 35%以上向上した。^[11]

SenseTime はまた、「Raccoon」と呼ばれる新しい AI アシスタントを発表した。これは複雑な情報を統合的に分析し、わかりやすく提示することで、オフィスシーンにおける「AI 生産力」を実現するものである。教育向けと金融向けのバージョンはすでに 500 を超える教育機関や 25 万人以上の教職員・学生、複数の金融機関で活用されており、ユーザー数は 1,000 万を突破した。^[11]

Baidu、Alibaba、その他の主要企業

Baidu、Alibaba、Tencent といった中国のテクノロジー大手は、いずれも AI サービスの開発・提供を積極化している。これらの企業は、既存の巨大なユーザーベースとデータ資産を活用して、検索、電子商取引、ソーシャルメディア、クラウドサービスなどの既存事業に AI 機能を統合し、競争優位性を強化している。^[11]

新興 AI 企業も存在感を示した。MiniMax、Moonshot AI、Stepfun などは、独自開発の最新技術を披露し、中国 AI 産業の多様性と革新性を示した。会期中には「上海総商会 AI 委員会」という新たなアラ

イアンスも結成され、SenseTime、StepFun、MiniMax、半導体メーカーの Metax、Iluvatar CoreX など
が参加した。このアライアンスは「AI 技術と産業変革の深い統合の促進」を目指すものである。^{[6][11]}

外国企業では、電気自動車メーカーの Tesla や、Amazon、Google といった米国企業の参加も目立っ
た。日本企業ではリコー、日鉄ソリューションズなどが出展した。ただし、OpenAI など一部の欧米
AI 大手の参加に関する具体的な情報は見当たらず、米中の技術競争や政治的緊張が影響している可能
性が指摘される。^{[12][11]}

DeepSeek ショックとその影響：効率化への転換

WAIC2025 を理解する上で避けて通れないのが、2025 年初頭に起きた「DeepSeek ショック」の影響
である。中国の AI 企業 DeepSeek が開発した大規模言語モデル「DeepSeek-R1」は、OpenAI の o1 モ
デルと同等の性能を持ちながら、開発費用が ChatGPT の 10 分の 1 とされ、AI 業界に衝撃を与え
た。^{[13][14][15][16]}

DeepSeek の革新は、「蒸留（Distillation）」という手法にある。これは親となる大きなモデルと子と
なる小さなモデルを用いて、親の出力結果を子のモデルに反映させる技術である。また、強化学習の
みで性能向上を実現し、小さなモデルに対する蒸留が大幅な性能向上をもたらすことを実証した。こ
れにより、高性能 GPU に依存せずに高度な AI モデルを構築できる可能性が示された。^[16]

DeepSeek ショックは、NVIDIA 株価の 17%急落をもたらし、AI 開発における「効率性」と「コスト
パフォーマンス」の重要性を業界全体に再認識させた。WAIC2025 では、この教訓が各企業の戦略に
反映されていた。大規模モデルの開発競争から、実用性と効率性を重視した「スマートな」開発へと
焦点が移行しつつあることが明確に見て取れた。^{[14][17][13][16]}

Moonshot AI の関係者は「今後は技術開発に集中し、推論モデルとマルチモーダルの上グレード
に取り組む」と言及した。これは、パラメータ数を増やすだけの単純な規模拡大ではなく、モデルの
質的向上と実装可能性を重視する方向性を示している。^[17]

エンボディド AI とロボティクスの爆発的成長

WAIC2025 で最も熱気に包まれたのが、エンボディド AI（具身知能）と人型ロボットの展示エリアで
あった。前年の 18 社から 80 社以上へと参加企業が急増し、国内最大規模のロボット集結となっ
た。^{[18][19][5]}

実用化への明確なシフト

2024 年の WAIC でヒューマノイドが単に手を振るデモに終始していたのに対し、2025 年の展示は劇的に変化した。下半身を二足歩行から台車に変更するなど、実務を想定したデモが主流となり、スーパーマーケットでの品出し、資材の仕分け、Keenon Robotics の「XMAN-F1」による飲料提供、UBTech の「Walker S2」による自律的なバッテリー交換など、具体的な業務シーンでの活用が提示された。^[20]

UNITREE のボクシングロボットが象徴する技術進化

浙江省杭州市のスタートアップ UNITREE のブースは、会場で最も賑わったブースの一つとなった。2 体の同社人型ロボット「G1」がプロ仕様のグローブとヘルメットを着け、激しいボクシング対決を披露した。連続パンチや回し蹴りをこなし、倒れても素早く起き上がる高い運動能力は、スマートなバランス制御アルゴリズムとハード・ソフトが高度に連携したリアルタイム制御の成果である。^[5]

このデモンストレーションは単なる見せ物ではなく、動的平衡アルゴリズムの高度化を示すものである。衝撃を受けても各ジョイントモーターをリアルタイムで調整できるため、安定して立ち続けることができ、倒れてもすぐに起き上がるのが可能になった。^[21]

産業構造の二層化

人型ロボット産業は明確に二つのレイヤーに分かれつつある。一つは、Boston Dynamics や UBTech に代表される、機械設計やアクチュエータ、制御システムに強みを持つ「本体企業（Body-focused）」である。もう一つは、Figure AI や Physical Intelligence、Covariant など、VLA モデルを基盤に模倣学習や強化学習といったソフトウェア層に注力する「大脳企業（Brain-focused）」である。^[20]

本体企業の 50%以上が運動制御を最適化する「小脳」AI を既に導入しており、サーボ系は実装されている段階にある。一方、大脳企業はハードウェアに依存しない柔軟な知能を開発し、ロボットの「大脳」を担うことを目指している。この二層構造は、今後のロボット産業の発展において、垂直統合型企業とモジュール専門型企業の共存・競争を生み出す可能性がある。^[20]

商業化の加速

UBTECH は 2025 年、中国の某有名企業から 2.5 億元（約 50 億円）のフィジカル AI 人型ロボットの調達契約を獲得した。これは現在までに人型ロボット分野で世界最大規模の単一契約である。同社は今年中に 500 台の Walker S2 を出荷し、スマート製造業の現場に投入する計画である。^[22]

Walker S2 は世界初の自律的なバッテリー交換システムを搭載し、24 時間 365 日休みなく稼働できる。独自の群知能ネットワーク「BrainNet 2.0」と産業用人型ロボット向けに開発されたエージェント技術「Co-Agent」により、単体での自律作業と複数のロボットによる協調作業の両方を実現している。^[22]

北京経済技術開発区（北京亦荘）は 2027 年末までに、年間 1 万台規模のエンボディド AI ロボットの量産能力を形成する計画を発表した。今後 2 年間で 1 万台のエンボディド AI ロボットの応用需要を放出し、うち人型ロボットは 1000 台以上、応用分野は先端製造、教育、造園・水域、産業パーク、商業サービス、医療・ウェルネス、電力点検、都市行政管理、コミュニティ管理など、社会・経済の重点領域をカバーする。^[23]

自動運転とスマートモビリティの進展

WAIC2025 では自動運転技術の展示も重要な位置を占めた。中国の自動運転産業は、米国の Waymo や Tesla とは異なる独自の発展経路を歩んでいる。

Baidu Apollo Go は中国の自動運転分野をリードする存在として、複数の都市でロボタクシーサービスを展開している。中国の自動運転技術の特徴は、5G 通信と V2X（Vehicle-to-Everything）技術の統合による「車路協調」システムの重視にある。これは車両側のセンサーだけに頼るのではなく、道路インフラとの通信を活用して安全性と効率性を向上させるアプローチである。^[24]

会期中に締結された 32 件の大型プロジェクト契約の総投資額は 450 億元超（約 9,450 億円）に達し、その多くが自動運転（スマートモビリティ）やエンボディド AI 分野など多岐にわたった。これらの契約は、AI 技術の商業化が実質的な段階に入っていることを示している。^[25]

上海市は「WAIC City Walk」スマート体験ループを構築し、ドローン通勤や低空経済といった新技術が日常生活サービス、都市交通、産業エコシステムなど様々なシナリオに適用できることを実証した。2025 年第 1 四半期、上海の AI 産業規模は 1180 億元を超え、人材プールは全国の 3 分の 1 を占めると報告されている。^[26]

医療・ヘルスケアにおける AI 応用

WAIC2025 では医療・ヘルスケア分野における AI 応用も重要なテーマとして取り上げられた。マルチモーダル AI による画像診断支援システムや、推論モデルを活用した創薬技術の開発が進んでいることが示された。^[25]

AI がレントゲン写真の異常を早期に発見したり、患者のデータを分析して最適な治療プランを提案したりする技術は、すでに実用段階に入りつつある。特に中国では、医療リソースの地域的偏在が深刻な課題となっており、AI による診断支援は遠隔地の医療アクセス改善に大きな可能性を持つ。^[25]

ただし、医療分野での AI 利用には倫理的・法的な課題も多い。日本でも「医療・ヘルスケア分野における生成 AI 利用ガイドライン」が策定されているように、中国でも適切なガバナンスの構築が進められている。^[26]

中国政府の AI 戦略とガバナンス構想

WAIC2025 の開幕式には、中国の李強首相（政権ナンバー2）が出席し、AI 分野における中国の戦略的意図を明確に打ち出した。李首相は「世界人工知能協力組織（World AI Cooperation Organization）」の設立を提案し、技術開発と安全保障で各国が協調するよう呼びかけた。この組織の本部は上海に置くことが検討されている。^{[27][28][29][30]}

AI 安全コミットメント枠組み

大会期間中、「中国 AI 安全コミットメント枠組み（China AI Safety Commitment Framework）」が発表された。これは技術革新とリスクガバナンスのバランスを取り、協力に関する国際的コンセンサスの強化を目指すものである。^{[31][2]}

また、「AI グローバルガバナンス行動計画（人工智能全球治理行動計画）」が公表された。この計画は 13 の原則で構成され、特に原則 12 では「途上国の AI 革新・応用・ガバナンスに関する総合能力の強化を支援し、国民の AI 素養とスキル向上、とりわけ女性・児童のデジタル・知的権益保護と強化を確保し、インテリジェンス格差を解消する」と明記されている。これはグローバルサウス諸国へのアプローチを明確に意識したものである。^{[32][27]}

AI チップ供給制限への対抗

李首相は名指しこそしなかったものの、AI が一部の国や企業にとって「独占ゲーム」になりかねないと警告し、AI チップの供給不足や人材交流の制限などが課題との見方を示した。これは明らかに、米国による NVIDIA などの最先端 AI チップの中国への輸出制限を念頭に置いた発言である。^[33]

中国の対応戦略は明確である。Huawei の独自 AI チップ開発、Alibaba、Tencent、Baidu などによる自社 AI 専用チップの開発推進、そして DeepSeek が示したような効率的なモデル開発手法の探求であ

る。これらの取り組みは、外部依存を減らし、AI 供給チェーンの自立を達成しようとする中国の決意を示している。^{[33][7]}

グローバルガバナンスにおける主導権争い

中国が WAIC2025 で打ち出した AI ガバナンス構想は、米国の AI 政策とは対照的である。2025 年 7 月、米国トランプ政権が発表した AI 行動計画は、煩雑な規制を批判し、米国の価値観を反映したイノベーション促進を強調するものであった。^{[34][27]}

一方、中国は多国間主義を尊重し、開放・共有・包摂を原則とする国際協力を提唱している。これは、米国が自国主義的な政策を推進する中、中国が国際社会の主導者としての立場を固めようとする戦略と見ることができる。^{[28][27]}

ただし、中国の「言」と「行」の相違には慎重にならなければならない。中国政府による監視、検閲、国家によるデータ管理といった実際のデジタル政策は、民主主義国家の基本理念と相反する側面がある。日本は広島 AI プロセスを主導しており、米中の思惑に左右されない安定的な国際議論を発展させる役割が期待される。^[27]

投資・商業化トレンドとスタートアップエコシステム

WAIC2025 は、技術展示だけでなく、AI 産業のビジネスエコシステムを可視化する場としても機能した。会期中に締結された 32 件の大型プロジェクト契約の総投資額は 450 億元超（約 9,450 億円）に達した。^[4]

4 つのサブブランドによるエコシステム形成

WAIC は 4 つのサブブランドを体系的に立ち上げ、「イノベーション・インキュベーション、産業ドッキング、ソートリーダーシップ、青少年育成」という 4 つの経路を軸としたクローズドループ・エコシステムを形成した。^{[4][2]}

- **WAIC Future Tech** : イノベーションリソースのマッチングを加速
- **WAIC CONNECT** : 実際の商業需要を引き出し、成果・市場需要・注文マッチング・リソース割り当てを結び付けて商業化を促進
- **WAIC UP!** : AI 時代の思想的座標軸を共創
- **WAIC Young** : 若者の科学技術潜在能力を刺激

地下 1 階の「Future Tech」エリアでは、200 社以上の AI 系スタートアップが集結し、若手起業家によるピッチと実際の商談が同時進行した。出展企業の約半数はスタートアップなど革新的企業であり、中国 AI 産業の多様性と活力を示している。^{[5][11]}

大企業による戦略的投資

中国のテクノロジー大手は、LLM 分野のスタートアップへの戦略的投資を積極化している。Alibaba は、MiniMax に 6 億ドル以上を出資し、Moonshot AI、Zhipu AI、Baichuan Intelligent、01.AI のユニコーン 5 社にも投資してきた。^[35]

これらの投資の特徴は、出資の一部を計算リソースという形で支払っている点である。LLM の運用はクラウドサービスに大きく依存しており、調達した資金の大部分がクラウドベンダーから計算リソースを購入するために用いられる。Alibaba は、LLM 開発企業への出資を通じて、強力な演算能力を必要とする企業と Alibaba クラウドの長期的な連携を実現している。^[35]

UBTECH は 2025 年 8 月、国際的な投資会社 Infini Capital と 10 億ドル規模の戦略的パートナーシップ契約を締結した。この協力は資金面だけでなく、産業チェーンの川上から川下までを共同で投資し、特に中東市場を開拓することに焦点を当てている。中国のロボット企業は、国内での成功体験を基に、グローバル市場へと本格的に展開する段階に入っている。^[22]

WAIC2024 からの変化と進化の方向性

WAIC2025 を理解するには、前年の WAIC2024 との比較が有益である。いくつかの重要な変化が観察される。

規模の拡大

WAIC2024 の展示面積は 5 万 2000 平方メートル、出展企業は 500 社以上であった。それに対し、WAIC2025 は展示面積 7 万平方メートル、出展企業 800 社以上と大幅に拡大した。展示製品・技術は 3,000 点以上で、新製品の初公開数は前年から倍増した。^{[36][37][3][11]}

焦点の移行：技術誇示から実用化へ

2024 年の展示が「大規模 AI モデル」「コンピューティング力」「ロボット技術」「自動運転」などの最先端分野を中心としていたのに対し、2025 年は「実用化」と「産業応用」により明確な焦点が

当てられた。大規模 AI モデルの展示においても、パラメータ数の大きさを競うのではなく、実際の導入事例と効果が重視されるようになった。^{[36][5]}

エンボディド AI の台頭

2024 年にヒューマノイドが 18 社の出展にとどまり、デモも限定的だったのに対し、2025 年は 80 社以上が参加し、実務を想定した具体的な応用デモが主流となった。この変化は、中国のロボット産業が概念実証段階から本格的な商業化段階へと移行したことを示している。^{[20][5]}

若手人材の台頭

WAIC 青年優秀論文賞には約 200 編の論文が応募され、投稿者の平均年齢はわずか 29 歳、博士および在学中の博士課程学生の割合が 79.4%に達した。若年層世代の貢献が顕著化し、彼らの想像力が中国 AI を中国から世界へ拡大させる原動力となっている。^[3]

中国 AI 産業の独自の特徴と強み

WAIC2025 を通じて浮き彫りになった中国 AI 産業の特徴は、以下のように整理できる。

完備されたサプライチェーン

国家地方共建人型ロボット創新センターのチーフサイエンティスト・江磊氏は、「中国のサプライチェーンには競争力があり、多くのシリコンバレーの企業が中国からロボットを買って訓練したいと考えている」と指摘した。中国はロボットや AI 機器の製造において、部品供給から組み立てまでの一貫した産業チェーンを国内に有している。^[38]

豊富な応用シーンとデータ

江氏はまた、「データ収集と研究がますます工場生産に似た状況になりつつあるなか、米国企業は中国企業のように豊富な製造業のデータを持つすべがない」と述べた。中国の巨大な市場と多様な産業シーンは、AI モデルの訓練と検証に必要な大量のデータを提供する。^[38]

14 億人という人口規模は、消費者行動データ、医療データ、交通データなど、あらゆる領域で膨大なデータセットを生み出す。中国のデータ保護規制は欧米とは異なる枠組みを持ち、企業によるデータ活用に一定の柔軟性を与えている側面がある。^[39]

強力なエンジニアリング能力

中国 AI 産業の強みは、理論研究だけでなく、技術を迅速に製品化し、大規模に展開するエンジニアリング能力にある。DeepSeek の例が示すように、限られたリソースで高性能なモデルを開発する「効率的なイノベーション」が中国の得意分野となっている。^{[14][16][3]}

政府の強力な支援

中国政府は 2017 年に「新世代人工知能発展計画」を発表し、2030 年までに中国が AI の世界的リーダーになることを目標に掲げた。カスタム AI プロセッサやエンジンを含む AI インフラストラクチャの開発に多額の資金が割り当てられている。^[33]

北京経済技術開発区の「1 万台ロボットイノベーション応用計画」や、上海の AI 産業振興策など、地方政府レベルでも積極的な支援が行われている。このような政府主導のエコシステム構築は、民間企業の活動を補完し、産業全体の成長を加速させている。^[23]

オープンソース戦略

中国企業は、欧米企業と比較して、より積極的にオープンソース戦略を採用している。Tencent の Hunyuan 3D World Model 1.0、DeepSeek のモデル、Alibaba Cloud が公開している Qwen シリーズなど、多くの高性能モデルがオープンソースとして公開されている。^{[10][16][9]}

この戦略は、グローバルな開発者コミュニティとの協働を促進し、モデルの改善を加速させるとともに、中国技術の国際的な影響力を高める効果がある。また、米国の技術制限に対する対抗手段としても機能している。

今後の展望と課題

WAIC2025 が示した中国 AI 産業の現状は、技術開発から実用化、商業化へと明確に移行しつつあることを示している。しかし、いくつかの重要な課題も存在する。

AI 安全性とガバナンスの実効性

中国が提唱する AI 安全コミットメント枠組みやグローバルガバナンス行動計画は、その実施と実効性が問われる段階にある。資金、法制度、信頼性の確保といった具体的な実施メカニズムの構築が今後の課題となる。^{[28][31][27]}

AI Safety in China の報告によれば、WAIC2025 では中国 AI 安全発展協会（CnAISDA）が初めて AI 安全に焦点を当てたプレナリーセッションを主催し、国家関連シンクタンクのトップが CBRN（化学・

生物・放射性・核）の誤用リスクについて警告した。また、「上海コンセンサス」が WAIC 期間中のサイドイベントで署名され、レッドラインと **safe-by-design** 研究を呼びかけた。^[40]

ノーベル賞受賞者の **Geoffrey Hinton** 氏は、中国政府関係者との非公開会議で AI 安全について議論した。AI 開発における倫理的配慮と安全性の確保は、中国 AI 産業が国際的な信頼を獲得する上で不可欠な要素となる。^[40]

基礎研究と応用のバランス

中国 AI 産業は応用と商業化で急速に進展しているが、基礎研究における持続的な投資も必要である。短期的な成果を求める圧力の中で、長期的な視点に立った基礎研究への支援をどう維持するかが課題となる。

WAIC のような大規模イベントが学術的な深化を重視し、チューリング賞受賞者や著名な研究者を招聘していることは、この課題への認識の表れと言える。^{[3][2]}

国際協力と技術移転の制約

米中の技術競争が激化する中、中国 AI 企業は国際市場での展開において政治的な制約に直面する可能性がある。UBTECH の中東展開のように、グローバルサウス諸国との連携を強化する戦略は、この制約を回避する一つのアプローチである。^[2]

しかし、真にグローバルな AI 産業エコシステムを構築するには、欧米諸国との建設的な対話と協力も不可欠である。日本は、広島 AI プロセスを通じて、米中の橋渡し役として重要な役割を果たす可能性がある。^[2]

人材育成と倫理教育

AI 技術の急速な発展に対応できる人材の育成は、中国だけでなく世界共通の課題である。WAIC が「WAIC Young」というサブブランドを立ち上げ、若者の科学技術潜在能力を刺激していることは、この課題への取り組みの一環である。^{[2][4]}

同時に、AI 技術者に対する倫理教育の重要性も増している。技術的な能力だけでなく、社会的責任や倫理的判断力を持った人材を育成することが、持続可能な AI 産業の発展には不可欠である。

結論：AI 産業の新たなフェーズへの移行

WAIC2025 は、中国 AI 産業が技術開発の「デモンストレーション段階」から「実装・商業化段階」へと本格的に移行したことを明確に示すイベントとなった。展示面積 7 万平方メートル、800 社以上の企業参加、延べ 35 万人の来場という過去最大規模は、単なる量的拡大ではなく、AI 技術が社会・経済システムに深く浸透し始めたことの反映である。^{[3][2][1]}

大規模言語モデルにおいては、パラメータ数を競う段階から、実用性・効率性・コストパフォーマンスを重視する段階へと移行した。DeepSeek ショックはこの転換を象徴する出来事であり、中国企業は限られたリソースで高性能を実現する「効率的イノベーション」で独自の強みを発揮している。^{[13][16][14]}

エンボディド AI とロボティクスの分野では、概念実証から大規模商業化への移行が顕著である。UBTECH の 2.5 億元の大型契約や、北京経済技術開発区の年間 1 万台量産計画は、人型ロボットが実際の産業現場で価値を創出する段階に入ったことを示している。^{[23][22]}

政府レベルでは、李強首相による「世界人工知能協力組織」設立提案や、AI 安全コミットメント枠組みの発表は、中国が AI 技術の開発競争だけでなく、国際的なガバナンスルールの形成においても主導権を握ろうとする戦略的意図を明確にした。これは米国の自国中心的な AI 政策とは対照的であり、グローバルサウス諸国への訴求力を持つアプローチである。^{[31][32][30][27][2]}

投資とエコシステムの観点では、450 億元超の契約締結や、4 つのサブブランドによる統合的なエコシステム形成は、AI 技術の商業化を支える包括的な環境が整いつつあることを示している。若手研究者の台頭も顕著であり、中国 AI 産業の持続的な成長を支える人材基盤が形成されている。^{[4][2][3][1]}

ただし、課題も多い。AI 安全性とガバナンスの実効性確保、基礎研究と応用のバランス、国際協力における政治的制約の克服、そして倫理教育の強化など、解決すべき問題は山積している。^{[40][27]}

WAIC2025 が示したのは、中国が「世界で最も完備されたサプライチェーン、最も豊富な応用シーン、最も強力なエンジニアリング能力」を武器に、AI 技術を次世代のインフラへと発展させようとする壮大な取り組みである。この動きは、グローバルな AI 産業の競争構造を根本的に変える可能性を持ち、日本を含む世界各国の AI 戦略に大きな影響を与えることは間違いない。知的財産の専門家にとって、中国 AI 産業の動向を継続的に注視し、その技術的・戦略的インプリケーションを理解することは、今後ますます重要性を増すであろう。^[3]

1. <https://www.jetro.go.jp/biznews/2025/08/438061d91857c62c.html>
2. <https://kyodonewsprwire.jp/release/202507252715>
3. <https://www.takumi.ltd/report-2025waic>
4. <https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/1635315>
5. <https://techblitz.com/expert-insight/contribution-takumi-innovators11/>
6. <https://jp.reuters.com/economy/industry/ZK6SJZFACZLPPBPPVG3TMPNLJA-2025-07-28/>
7. https://oneword.co.jp/bignite/ai_news/china-ai-cloud-market-expansion-alibaba-bytedance-huawei-dom/
8. <https://www.fotol.ai/blog/tencent-hunyuan-3d-world-model-goes-open-source-create-interactive-virtual-worlds-with-a-single-sentence>
9. <https://coincentral.com/tencent-releases-groundbreaking-ai-model-for-real-time-3d-scene-generation/>
10. <https://cgworld.jp/flashnews/01-202508-HunyuanWorld.html>
11. <https://www.sensetime.com/jp/news-detail/51170118?categoryId=51134757>
12. <https://chotto.news/the-2024-world-ai-congress-opens-in-shanghai-global-ai-firms-participation-and-chinas-ai-breakthrough/>
13. <https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03371/101500001/>
14. <https://viva-eureka.com/blog/eureka-dx/13634/>
15. <https://www.zdh.co.jp/bi-online/deepseek/>
16. <https://www.asteria.com/jp/inlive/social/7384/>
17. <https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03371/101500001/?P=2>
18. https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03371/101700003/?ST=nxt_idx_common
19. <https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03371/101700003/>
20. https://note.com/mick_eto/n/nce212fa22a39
21. <http://j.people.com.cn/n3/2025/0813/c94476-20352478.html>
22. <https://note.com/zhenren63/n/nfdaf7a601a29>

23. https://spc.jst.go.jp/news/250803/topic_1_01.html
24. <https://axconstdx.com/2025/08/20/自動運転2025年最新動向|waymo-vs-tesla技術競争と中国勢の挑/>
25. https://jp.ext.hp.com/techdevice/ai/ai_explained_01/
26. https://haip-cip.org/assets/documents/nr_20241002_02.pdf
27. <https://note.com/poyassa/n/n05149ca36214>
28. <https://note.com/tama583/n/n744d062332ed>
29. <https://www.icipo.org/theme01/> 【李強首相が2025年世界ai会議とaiグローバルガバナンス/
30. <https://jp.reuters.com/world/us/QPHXHQFVANOVTCRTLHHKJSDDNY-2025-07-26/>
31. <https://www.agara.co.jp/article/521639>
32. <https://w.media/ja/china-proposes-global-ai-governance-and-open-source-sharing/>
33. <https://riscv.or.jp/2025/01/chinaaienginesriscv/>
34. <https://www.ietro.go.jp/biznews/2025/09/a2770442ea926467.html>
35. <https://36kr.jp/280114/>
36. <https://techblitz.com/report/waic2024-trend-report-202408-by-takumi-innovators/>
37. <https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/02917/081400002/>
38. <https://36kr.jp/368762/>
39. <https://www.pwc.com/jp/ja/knowledge/column/awareness-cyber-security/generative-ai-regulation05.html>
40. <https://aisafetychina.substack.com/p/special-edition-world-ai-conference>
41. <https://parametric-architecture.com/3d-world-generation-hunyuan3d-1-0/>
42. <https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/02917/>
43. https://www.concentinc.jp/design_research/2025/08/accessibility-3points/
44. <https://www.aibase.com/ja/news/18885>
45. <https://trends.codecamp.jp/blogs/media/itnews12>
46. <https://www.sensetime.com/jp/product-detail?categoryId=51134806>

47. https://spc.jst.go.jp/news/251003/topic_3_03.html
48. <https://gigazine.net/news/20250714-ai-kimi-k2/>
49. <https://itpromag.com/2025/04/11/sensetime-8/>
50. https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03371/101500001/?ST=nxt_idx_common
51. <https://www.facebook.com/sensetimegroup/posts/-at-waic-2025-we-launched-sensenova-v65-the-latest-evolution-of-our-large-model-/1260236685898916/>
52. <https://jp.linkedin.com/company/sensetime-group-limited>
53. <https://www.bloomberg.com/news/articles/2023-04-10/alibaba-backed-sensetime-unfurls-china-s-latest-chatgpt-rival>
54. <https://jp.prnasia.com/story/125306704-3.shtml>
55. <https://www.investsh.org.cn/investsh/xwqsen/2025071112313610497494>
56. <https://expolume.com/expo/world-artificial-intelligence-conference-waic/>
57. <https://sinology-initiative.com/economy/2745/>
58. <https://techbuzzchina.com/attend-world-ai-conference-waic-2025-with-tech-buzz-china/>
59. https://www.ruijie.co.jp/news/next-generation-ai-networking-innovations_1965965234437689346.html
60. <https://japanese.cri.cn/2025/07/26/ART11753513549645396>
61. <https://english.shanghai.gov.cn/en-WAICMultimedia/20250724/648d22379392439584ed60c91e0d748f.html>
62. <https://note.com/kmoriyama/n/n1733d3fdac90>
63. <https://kyodonewsprwire.jp/release/202507302915>
64. <https://english.shanghai.gov.cn/en-2025WAIC/index.html>
65. <https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03371/>
66. <https://www.worldaig.com.cn/en/>
67. <https://www.adfwebmagazine.jp/ja/event/waic-2025-global-ai-forum-shangh/>
68. <https://knowledge-hd.co.jp/大規模言語モデルの限界と可能性：ai 研究者が語る/>
69. <https://simplique.jp/what-is-llm/>

70. <https://note.com/ilujapan/n/n3de92b34e9e9>
71. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000020.000146609.html>
72. <https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=81224?site=nli>
73. <https://www.dreamnews.jp/press/0000326452/>
74. <https://media.tosbac-systems.co.jp/posts/column064>
75. <https://rp.kddi-research.jp/atelier/column/archives/5390>
76. https://www.ipa.go.jp/digital/chousa/j5u9nn0000009r68-att/aiws3_20250911_keynote1_Inoue.pdf
77. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000037.000013422.html>
78. <https://smart-mobility.jp/ct/17744115/p3>
79. <https://jp.weforum.org/stories/2025/10/ai-in-healthcare-risks-could-exclude-5-billion-people-ja/>
80. <https://www.sbbt.jp/article/st/171080?page=2>
81. <https://irex.nikkan.co.jp/webinar/detail/1589>
82. <https://mag.moov.co.jp/1452/>
83. <https://www.sotatek.com/jp/blogs/ai-adoption-in-healthcare/>
84. <https://rev-m.com/self-driving/vsilabs20241107/>
85. https://rpa-technologies.com/insights/ai_medicalcase/
86. <https://www.youtube.com/watch?v=51VI8DZGGag>
87. <https://axconstdx.com/2025/07/06/【経営者必読】自動運転市場の将来性とは？2025-2035年/>
88. <https://www.youtube.com/playlist?list=PLVzXjVYGX9NM-WR6NzNfoIQ9ePs90Hs4g>
89. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000030.000146609.html>
90. <https://submarine-c.com/media-bigtech/china-ev-vs-tesla-waymo/>
91. <https://www.youtube.com/watch?v=q8G13h5ZyE0>
92. <https://japanese.cri.cn/2025/07/28/ARTI1753681982992300>
93. <https://kpmg.com/jp/ja/home/insights/2025/08/2025h1-world-ai-regulation.html>

94. https://aisi.go.jp/assets/pdf/20251003_1.pdf
95. <https://www.digitalpolicyforum.jp/issue-ai-governance2025-vol1/>
96. <https://www.mod.go.jp/asdf/meguro/center/img/01kityou.pdf>
97. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000121.000044738.html>
98. <https://www.agentec.jp/blog/index.php/2025/01/09/agt-ai-018/>
99. <https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03371/101700002/>
100. https://note.com/nagoya_blog/n/n951f1c4ed408
101. https://www.idnet.co.jp/column/page_396.html
102. <https://36kr.jp/358093/>
103. <https://www.prnewswire.com/jp/news-releases/waic-2025shanghai-electricsuyuan-302516722.html>
104. <https://www.commercepick.com/archives/61620>
105. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000045.000127346.html>
106. https://www.kyodo.co.jp/pr/2025-07-25_3951296/
107. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000003.000146609.html>
108. <https://www.jetro.go.jp/j-messe/tradefair/detail/139752>
109. <https://www.linkedin.com/pulse/neural-networks-pixel-power-chinas-ai-ambitions-waic-2025-hitkf>
110. https://www.digital.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/08ed88e1-d622-43cb-900b-84957ab87826/bf5f4482/20251016_introduction_to_web_accessibility.pdf
111. <https://pandaily.com/tencent-unveils-hunyuan-3d-3-0-ai-model-tripling-modeling-accuracy-with-free-access>
112. <https://xgmf.jp/wp-content/uploads/2024/12/Beyond-5G-White-Paper-4.pdf>
113. <https://techblitz.com/expert-insight/translink-capital-ai/>